

社説

「第12回SUN-I-N未来ウォーク」が今月16、17の両日、鳥取県中部を舞台に開かれ、延べ2860人のウォーカーが伯耆路を歩いた。大会が全国組織の日本マーチングリーグ(JML)に加盟したことで、こゝしは全国からの参加者が例年以上に多く、参加者のおよそ半数、延べ約1400人に入った。国内外の人と地元の人が交流する大会へとラネージが本格的に変わった大会となり、地元にも喜ぶものとして関係者と共に喜びたい。

世界に胸張れる大会

天候が心配されたため当日参加が例年の半分ほどにとどまったのは残念だったが、国内参加は4都道府県に広がっ

た。韓国、インド、中国、ロシアなどからの参加も得て盛大な大会となり、鳥取県外からも参加者があつた。

未来ウォーク

世界のウォーキングエリアに

らの参加は前年比2・5倍。倉吉市の多くの宿泊施設が満室になるほどで、大会副会長を務めたNPO法人未来の岸田賢昭理事長は「私たちの思いである、美しく誇れる郷土人」を全国、世界に発信できたい」と喜ぶ。

地元にとって特にうれしいのは、この郷土自体が高く評価されたことだ。JML加盟により、全国の加盟大会を渡

り歩く人の参加が増えたが、これらウォーカーはいずれも「目の肥えた」人たち。岸田理事長にはその人たちが「歴史、健康、自然と、ウォーキング大会のキーワードとなる要素をすべて持っている」といえる。県中部は世界に誇れるまちなのだ。

と絶賛する声があふれた。とりわけ東郷池を囲むるコースには「こんなに美しいコースは世界でも少ない」との声もあつたという。また、Pへの評価も高かった。大会はNPO法人未来

を中心にしたスタッフと、中高生を中心に小学生から大人まで300人を超えるボランティアを支えられたが、笑顔で接するもてなしがウォーカ

ーの背中を押した。沿道ではスイカやイチゴ、薬膳そばなど無料で振る舞われ、白壁土蔵群周辺ではお店の人たちがあめ玉などを配る姿が見られた。これも県中部の人の親切という「資源」が評価されたいといえる。県中部は世界に誇れるまちなのだ。

地元の人々の行動を

岸田理事長が目指すのは県中部エリアを「世界一のウォーキングエリア」にするのと、世界からも高く評価されたいと、この夢に向かっている。大きく近づいたと言える。

県中部では11月10、11の両日、100+を2日間歩き通す大会が開かれるが、これは韓国の同様の3大会とともに「日韓グラウンドスラム大会」

に位置付けられ、世界に発信される。100+ならば県中部の主な観光名所を網羅するコース設定も可能で、岸田理事長らは「この大会を恒常的な大会にし、世界の過酷な大会を渡り歩く欧米の人たちを招き入れる考えだ」。

食べ物などでも同じことが

言えるが、今は地元の人や評価しないものは、外の人にも評価しない時代。それだけに岸田理事長は「地元の人々の参加がもっと増えてほしい」と願う。ウォーキングは観光客には新鮮さと面白い、癒やしを与えるが、地元の人にも普段気が付かないものを見せてくれる。自分たちのまちを、集落を、もう一度歩いて見つけ直してみたい。